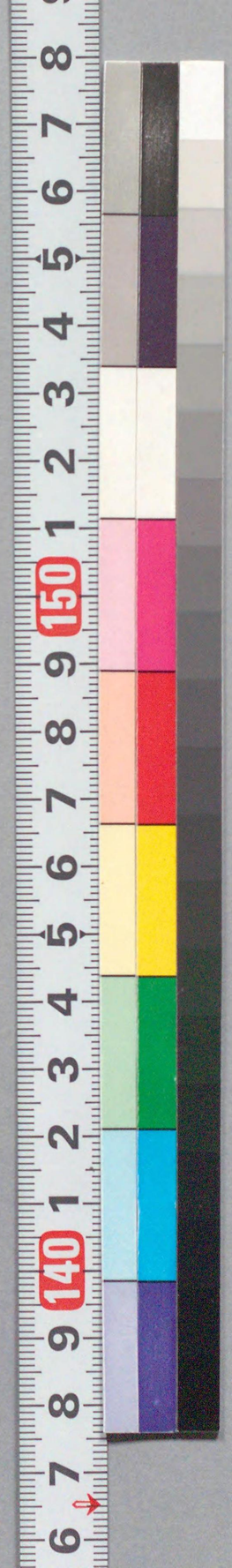
国立国会図書館　　春廿三夜待 3巻 208-155



ガラス使用

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

四季の日待

春廿三夜待 巻之下

神田丹前 岡山鳥述

月の出るまでの間毎々銀燭の長局毎々銀燭の行燈も行燈ども。ことごとくはなち払ひ黄昏のなごりも闇と御殿鉄漿くろめたる中に頭ばかりぬらぬらと光りて其中に頭と霜をいただきたる老人一人ぬっと出て煙草盆をひっくへたらん。雀岡。手ら七十ばかりの老人。一ト向隅たる。溜まりの間よ。火鉢とりよせ屯

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

〽たるの相室待人まひの會釋小笠原敷方を背ひた合
そのあたりとかにかもくうそ。
いろてちがうるつた合うう 引 のの大
だらうお土産のお視物さい出来そのみりんだ 富山さう
らうとうんやうたがとんだお有に出来たろうので雪の積った
富士の山をこらくそそもあれた 塩海苔
やうにうてまそうそ三保の松原のうちたよその風ま
そで波をきれいよ向の処こうらくのりやたよその風ま
召めざしのをいろくつまをとさ才一かのでたいのので。
ふいま 引 うりやアけーうらんこいこひ村だよ 富山 おみう〳〵今

夜ふけまおたのこだよおそうこうさを 個
あるうらよおんにおたのこだよ 引 ハイ〳〵すいぶん畏まり〳〵。
おまへさんおねむりおうそ今のお祝ぶさだよ。
それだぐよおがらいお祝ぶさだよ今どやアそんなけ〳〵答よ
めんまさまあらんどやアどざいまさんう 引 ハテサおまく。そこぶる
お母んだるよお秋うおまく今朝見くて居るすうく草ざし。
いろおとうだく 引 あれ一昨日。こうまたよ病の経のえ
ほうめさうこそぐで五ツ通ほどこうまたよそれをやア折
のつくんうにそうこ見まうそよめとをうろそのとぐでほて

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

両そうの手で廣げる。そこと見せる
[ト書]きのふもお上へたのんで京傳と豊國の草
ざうしをかつて来てられることや。そして遣り
たがやうぎ森さんよ。
此頃よ伯母が年始にまゐることや。たのんだ
まゐるわらぢやそのやうに
[ト書]ヤレ
ほんに年始でもひたちだ。廿八日よ羽倉多分
[ト書]それ
おいらもまゐるさ
[ト書]ふんふん
供だらう私もまゐられ酒もあがらんが
さるま
[ト書]それよ落米の菓子
[ト書]おやどのせんの大切
新當多分半元服おまへを拵そのよ
おうつくおまり拵ならうトいふ
[ト書]モウお表へいらツ
しやいとわらも皆さんよめまと思ふ
ぐづのきたト
[ト書]エイさうからおまちやつてをつたほた
サアく皆さんお出ようの形もメ
お当お若イ方がたのこと
[ト書]ヲヽ
悪いことをかゝまるよそんならおまへ
[ト書]イヤお供をたつく
お出る
[ト書]ハイと

[ト書]落米のほ
[ト書]エイさうからおまちやつてをつたほた
サアく皆さんお出ようの形もメ
お当お若イ方がたのこと
[ト書]ヲヽ
悪いことをかゝまるよそんならおまへ
[ト書]イヤお供をたつく
お出る
[ト書]ハイと

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

[梅ヤ]ヨヤそれはどの
ことをおまろひちト云ながらもんとすも
[つるや]梅谷どのコリヤマア
[つるや]▲コレとみさんいお相宝
[梅ヤ]▲ハイ●
をも勧めながらさそこそこの負にたそこ
ながらさそこそこの負にたそこ
それでもおをくがもとこ
すんなイヤサ勧がそれで出ますとうよ●ハイ
ソレがこみさんのうらこ
まつたをいハイ▲ソレがこみさんのうらこ
単竟ちが茶さんのやそうけ
老犬人使でもまてござるそのとうたよそ
そのまへに茶さんがあろまい

りのでもの蹴起したそのうえで召ま
たちまちそれでこみさんの云沢が
たでをするこの局雀岡がすこま
[玉山]ハイ完畢が福原が初
おそ毎くたまと[つるや]コレくそのや
と梅谷いおちらに御用がござり
中上てい[つるや]ハテ何をござく
尾久さ毎のお例よきとござれ又ぶらたちらく
と

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

さッしゃんナヨ。どのもころさんが深ひのじゃ。サ早く色うしゃと。トゆの白衣梅谷とうやをさこゆのとれどが。(ア事ばかりつきをするもそうてゐる)◯おさんのるの後ぎさに傍よごまでも行てこられるやるどア事おすぐにまるぐりしてくるのと。▲コリヤ次か仲座。くつるうそでもそうよおまりがつくんてりうもるのーそらをまてゐる。

妻谷どのゝそれをちやに当てのとうでも。のりまちをん。平生も会通り。兎よ角。まどうぐが会ふとようや。たとくころさんのか布が。金打るもろ町人じゃそれやにうそ。ぶけの立あるまひをとうて教てちんぜる。それを不足な。その顔つるのんじゃ。ゴサ梅谷どの。サァさろきの茶さんが三のる(アレヤさ梅谷さんがだぜ)

◯ハイ実そのもヤヒとうり。不調法の是非もるーぺ私が振で。仕足ました。たと忘名多ちばゐのをよくろ。◯ハイ▲イヤうーやそんるむさいきいござらぬ。ころさんのためよるのる事に教てちんぜる。マアようーやれや三のる(ソリヤメエまでエ)又久ーいのんだなんぞらんるお振る。吟こと云とごめさ。

▲ころさんのその今の仕宮こいのの仕宮やら。何じゃやらもれん。夫にあのとりまちーマアらのとうるのぞが。若イ時分。先の尾久さるの祖候人の十二の

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

時うら仁宿夫よまで今の尾久まで違ふそれわ
むづかしのもゝきてそうめんる生質くだか了この九ツ限
此同気とのが四六ツそれからそうが母のそれ厳て仕宿に
生そがさのごもうく〳〵さそうりうまで打ふもの知ぐそ
すむまのとそうてれ夜詰がすむとおかの
そはおるそれも人よ敬ふてさうまきを見
うまきあらまれ奉文のまのようのこのうのを見え
そうもうつ〳〵帰通いらぐそ文針仕るひとのを
見てそ気ニタの十五の年にそのお尾

入て洗ふてあられ着請の当まるまでに猫山の別
業住居その内よお髪をまげて女中がひまうそうで。
猫をちらしてさがる。夫らかお髪もうがあげるう。

[この引] ナニマシダ長イお後だ。この
人をぼくさが私へ。マアどのするだら人の梅吾さんもあん
ぶのようだまうて。ゆえているさるぶ
おる由ネ。ヤだれぐと云れて。▲夫程にお
そうく。私屋へものぐそもく。
今の七十年にるまでそのよ着
そうのをく。夫よ又あの茶うんが。ちよいと面つくれぶっ

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

ようけれ。りゝあれがころ〳〵ところびて居間で戸野が
ひろうとお検よおるり狂とものめでもものいそのとそな
お髪〳〵めこったら。マアどのやうなとろう。ファイちの
雀ちるのとん。女子一ト通りのとろ。
アモウおれっとゝ〳〵。とるさんのようるおつまりのもの。
何を云ても。糖よ釘トテモノコトニその薬うんで。トうあげて
●これ〳〵。犯もるびちん教訓骨身よあこゝろ〳〵▲
とろうと。えエさやったら●ハイトごい
積が痛とろ名を外て敬座〳〵さぶる。気てあらうぶる。

それもるらぬ。サアこゝとのちよ
私い▲ハテサテそれいるらぬとのの
汐よのゝ〳〵。仲居お次にのうちそ。ここをつてテ
あったりをひ一ト。よおすぐ奉下のロりゝ。又ぐ
廣へゝと金張弁小。銀燈の籠
戸野さ多。東西よ並ぶ。興が
ゐるう。やぶ十八丁とんやうるらぬ
ひゝくたり[ろの]サア咲をまえ
ものの誰の次とナスい。知れたを
聞をとれぶようよ鬼角に逆イ。
宮皐さろうぶやがり

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

どうのこうの ○福引の仕うちがいろ〳〵あるげなが、それにこそ、おてやうをうけるがすでよろうんやの題の通り浦氏の十に非の物の拍にがあるよう。二三の次でありもあるよ。浦氏殺のおとくよりあるよう。

偉さうめいのうちをとがめ十一だんの勝負が立つ。雀岡でござるよ。トかうこそヤコレハサテ〳〵これは驚がまぶ。ありやちんもろたよ。雀岡どのおく〳〵 つるを ハイ〳〵大きに遅うござりました。ほう法 とのヲは さうならば。トごとうあげそハイこれをさ。ひらいてこて。

咲を夫。その文箱をこゝへおだせ。ヒュリヤ〳〵それいな。御法の文箱懐ねりの文箱とやらへおだせ。ヘイめうがたふ やくも 五十二だんぺイ〳〵私い大きにまちがひもありました。たやアヤアー

早蕨でござりまする とのは 是いおうの是が身が忌み才ジヤ ほうご出来〳〵。アハ〳〵この役ナ出来めでたいのアハ〳〵 とのは 咲を夫。その文箱をこゝへおだせ。ヘイと斗覚いだ

早蕨ころがー。ござや。俵びころがー とこゝもとにござるひもいだも。爺やくもおうくもるんともるうーころのせうじをそろとあけくもやくもどのくられをそろとこゝもとにござるひだと。 やくも アハ〳〵イヤリ〳〵ユレハリ〳〵アハ〳〵 咲を夫。

戸野さまのおゝひ才早蕨ころがー。俵びころがし俵びころがし。

早蕨ころがー。アハ〳〵 咲を夫。

笑ひ景物のおれねさんへ

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

そろそろうらん〳〵とやどゞハイ関屋[呵を夫]サアー〳〵とんざりのざハイ関屋
ゞゞ〳〵とおと一つとうて。ト中ぬぎのざうりを[ママ]コレハ
ゆう
買のてうちやうと笑をだまつて。
お坐敷〳〵の失徳な景物じや。早くそちらへお納めやう[呵を夫]
りそや誰彼るゝ〳〵と残り〳〵聞いた私るりから〳〵相くるくび。
めりがくの容をりやう軸ことの誠にめりがたいとのそうし。
うぢをとるそのぶたのあぐそ目あたゝアー松風まつぐの
めりがとゝ〳〵ヘイ賢君松風[呵]とりのハアるんと松風う
やそれいよいよの枝がもう〳〵身が才一のめんぢだぐこの
くらねみおうこのかめるまの。ろ〳〵イヤモウ秀逸じやイヤ

これいどうのもてうられぬどひ松がよの。
松茸な。るんとよいのなれじやゆらうがト
この比にいそのおりろくるたゆくよふたゆくよふそのぐ
ちとし。これいこもうこのがりたるのりのの通。西ろうふ
ハろ〳〵是ろ〳〵めりがこの誠にくよ権方宗和恐悦〳〵と
むやうたぐ[とりの]サア〳〵皆のりの務るようろうりのでそ
なれて見んせのョ呉をま早ふなれイ[呵を夫]今〳〵是ふ。
ろめ〳〵なれをまりうもでござりまをよ[とりの]どのろ〳〵
てろ。今晩ハ近元のりのがとんとげんさがるのいさのぜんも
身が。松ほと。松茸のなれをやう。のれりどよの滑稽を

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

やくそも。そんと笑ひね。酒をたんとのまセい。夜ふけ助サアく
そもの呑ねへ。皆雲川助。宮本
松。母をいぢさんなよ。鷺治浦治ぢうぢや。尾久サア
呑ッしやらんと【をく】誠よ〳〵。今晩はわりぢやの。
うさをそらセまいぞ【との】尾久女なよものぢやの。
たがうの。ちう〳〵そでも〳〵。ぬのうの。今
晩の身がやり好る幸ひ座敷と。梅谷の文おと草履の景
物を取ると。その身がおひをたがめる草を打のひつくと
うへ〳〵がうんたの【つる】モシ尾久さま。モシ〳〵ちとおいれ兒

おいれ申ませう。七十年の呂今近さうな。我たのそこ【をく】
それでも。賢君がア。厳命おいれ申ませう。
そもの〳〵を〳〵。〇てんぐうさぐらの【お猿見客庵】賢君〳〵。
ありのさまぢうで。ぶがのきのうへの
てもたぐの出来ものをまいつら。私と賢吉と二人で。御ぢ
ほけさをの【との】十二【二人】イエ。その分振をそうし〳〵教へ
やそう【との】ウンそれ夫がうもろう。そもの女の
ほるをさん〳〵。マア〳〵おたち【つる】イエ〳〵【私ハ厶ノ】私ハりのけ
て【二人】サア〳〵それぢやア又ぢ〳〵。サア梅谷さんも

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

おたちサアー[ト]ひに云をつれてござろ [とめ] どの
しの坐のりのナゼーあれね [とめ] [ハイ] 咲をまさる。まづく
おあさまさの [とめ] コレサ夜く助ナゼーあれねヨ [とめ] [ハイ]
咲た夫元いおあさがひーいト あさぎの彼がーあれ誠よく
ござりやせう [川助] [ハイ] 命よござりやせう [とめ] アヽ
あれとも分りやせん アヽサアー見てござれなるー [川助] [ハイ]
見ぬりがとゝト [やくも] 賢君先刻のごとく [とめ] コリヤ
なたお妻殿の面で私が京鹿子を踊さしやんすなく

三絃をト [とめ] コリヤ
夫いるらぬー。そちたちにあれいとり
何ぞとナスナゼ只小間物屋られん。コリヤト
あるでござる。
又会てござりやせう。
りのごや。青雲の志あるりのが左様の儀をものこくそ
りのうコリヤ壁よ耳ありとや 諺をたらん。
とや私がうーぬジヤニうて豆立どもの
右衛の俄い仕やうん。ナ仕やらんかうて
手下ごや又往来の有が笑うぬてござれ。[ハイ] 家僕ホ合雲が

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

踊よ。祇候人浦治ナラ。浦治。逢次ぎ
ころれがこのテをのばへねこの大磯或ハ化粧阪の数婦
でもよぶっていんせいを奏すること。
いこをよう。うたへのめが 尾久 賢君そのやうにれ叱こそ捨ぐまと又おさへ〳〵
ありやもこる。琴いよいでござりまをんこ。逢次ぎお伸君 ヲヤ〳〵
捨ぐまる とめ イヤ〳〵 弾ざる 踊を〳〵 だのよ。
ありくきるちことおりろくありそあだとかおぐだ。かひのそんおからが。まほこおこあ
やさあ毎にぶやアのそんるこそのみとるぶんをまた。行うをめたよこるさいるんの
ちぐあおりろくもれく。こふあさこそ〳〵どもが。ねんあっあすこ〳〵やア。
妻おひれでめまん大せいめたよおうろんぐれるふ長恨歌を深田さんとふもさん子

三味せんが梁戸さん。加弓が紅南さんサ。ありく〳〵あ
陰る治さんのそでそのおるぐさんのでで中ゥもるこ
るそれがいく。あのうがおをこくぐられること。
るんでも。ずっにナアトそうをえていよ をく それでも出でハ騒きを
きの。唄こぐるこでも。うこをもきの とのイエ〳〵それいるのを
ません。そうぶ君子二言るの〳〵や。シタが
逢次ぎ 逢られへまと其処で琴のまをきうせ。うこのこと変て
おるこぬ をく 尾久さ分へ行こよいうこ
うぶ身にも。あれん とのイ早のせのく。
き気が抜てこるハト まくぶこをあこをこ早くせのく をく ッニナラ
六ぶよでもせい ヘイと膝のうへをたらたるぐら云だそう

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

とする [とのの] マテ〳〵サア谷雲おどれサア〳〵立ねか。ごうごうやく
と云たたそられる [やくも] [おどれ] [おおき] [こまる] [たすけ] [ねがいちらけ] [しまう]
きそなること [さるど] めうこ奇んちやや〳〵とろ〳〵ちんとろ〳〵ちん
ちろ〳〵ちろ〳〵ちんとろ〳〵ちんちやんとろ〳〵ちんちやんとろ〳〵ちん
ちろ〳〵ちろ〳〵ちんとろ〳〵ちんちやんとろ〳〵ちんちやんとろ〳〵ちん
ちろ〳〵ちろ〳〵ちんとろ〳〵ちんちやんとろ〳〵ちんちやんとろ〳〵ちん
ちんつてんろ〳〵ちんつてんろ〳〵ちんつてんろ〳〵ちんつてんろ〳〵ちん
ちんきんめちんちんとろ〳〵ちんつてんろ〳〵ちんつてんろ〳〵ちん

とろ〳〵ちんざん [とのの] イヨ〳〵中〳〵。出来ました〳〵。サア〳〵雀ごを
梅谷へナゼよこさぬ。早ウ〳〵。そるもの。なつもなぜ五人早く見て
ようおれ [そり] 又おこれ持てこうこうたヤセよ
[おこぜ] ハイと、立てゐる〇是から又御館にぶたも幸をざる。ゐ夜詰
飽いおれども。鉄行燈の明りさへ。
廊下を幸い。客庵寛音二人して分ぶりを教る。
鏡山 [その通] サア〳〵誰ぞ。部屋方のうちに鏡山を知て居る
りのハナイカ。詰てられ〳〵と大きに [ばか] [ひがみ] [ねつ]
[ひがめ] ハイ私い梅谷がめつ〳〵のねつで

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

ござりまするれ館へおぐらねそのさた
いるのら早く。語ろ〳〵 [わづ] よろうさんとう知って
[ふうん] ヨシ〳〵 [おめん] ドンドンドン ねづや。草履で打つ
でも打ンでも。そもし〳〵 [わづ] よろうなり
の装。コレおかみさまへ表さそのお松がの
紋つきのうそもあはてておさん雀ごの役向れ居こ
こをこのこうれたかみ一とうりかっこうとのお
おづくりやおかみさまうごっシテアノそのお
たしまれうニテオとのやそよやきう〳〵雀ごのこ
ござりまするれ館へおぐらねそのさた
いるのら早く。語ろ〳〵 [わづ] ヨシ〳〵 知って
[ふうん] ドンドンドン ねづや。草履で打つ
でも打ンでも。そもし〳〵 [わづ] よろうなり
の装。コレおかみさまへ表さそのお松がの
紋つきのうそもあはてておさん雀ごの役向れ居こ
こをこのこうれたかみ一とうりかっこうとのお
おづくりやおかみさまうごっシテアノそのお
たしまれうニテオとのやそよやきう〳〵雀ごのこ

ドリヤおつて呉んぼうとござうござりあげ [おめん] コレサ梅吉さんござうござ
もってッシャレ立てトいのこでござうりをふり
とござるせく [ふうん] コレサ雀ごさうんおめへい
るせく。褌をひろげてスコシ。トいの身よろって。アレサこっちらの。
膝をおれサうのおやぢ様へ。コレサこよさ。 [わづ] だんなさまのさうきのび
をせんとおそをきろってりのこのそよふりにてござりまするれサ。そこで
してねてそちごうにあれさうだよの処へおそなのお
おあのめくたーくけきたり [ふうん] おあんさんおくあーりまうと。
モウ賢君が大キにおぐれ様にて草履ぶりに見ごとともヨイ。

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

止よせ。そんなお客を呼べと金柱がもと。尾久さんも
来よく。お困り様でいらっしゃいまし。 [芸者]
いえいえ大へんざくざくとりけり行○猫を中に二人立たる
ひろざしきへ廣座敷。大酢酣の戸外五郎弥来ったる医師のお客様 [とめ]
のようをいうそをうそをいうのものもいささごとうの止にちの
[おめん] へイ〳〵余にござりまするモウ宜やう 呉今 [とめ]
[おめん] 咲太夫さんがおめへまるで何ゞお愛ふあるとをなされゾヨイ
[咲之丞] イヤうもう完全のうら。何をうのそそのとのろくあんで
を居るて [おめん] サア〳〵そんなへナ [咲之丞] イヤ〳〵これいうのあんだ

が出ましたと さのぜんの松茸をお例のおうつが ちょうの牛乳 のひもをうって
まうと云ひ終。百人一首のうちを ちょうとそうそうをあろうて
海よあろうか一生けんめいの声を分ち 秋の田の。ト 扇をひらひらとうごかれい
ろいろぶるる形もなく。 [とめ] 咲をまをまくさのちめ大夫の
何がおめうございる。イヤサ何がおめうございるよりめ〳〵おっちらく
いろっちゃのサアハイでいるのは早くいろっちゃのコレ咲をま鎌倉どの
眼前でも。ごきちょ吉るの時その外は催のあるこ五座の春楽ナコレ
夫を戯まにいうてよいう。上るり孤唄と心得て居るう [咲之丞]
へイ恐入ました [俗女] 尾久さん。アレ意地悪ぐ〳〵これおやめあそばし
ませんから。マア〳〵いらっしゃいまし。すめそびりにたをものそとおやめを
たそおある渡られもうのこされ

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

秋の田の
中イ〳〵ト
刈くるの
こゝろのとまを
あらく
ヲヤ松三イ
とがる衣くもそ。
夢かぬれはイ〳〵

でらのうら夜とちひめとうきよは
なれそめしそもふところより文紙をおもそ。
ちめ こりや源治。その幕たりめん
るんとや。十三夜ゝ肋へ遣すのや不届
者源治勅くる。咲ちを支近侍の者そ
を動もせる。咲ちを支是へ〳〵これ
まを伯い人物もあり〳〵居眠こ倒
蹴る奴ら大勢がどろさう居る大火
イヤ大変小夜んだよ。マアどふさのこ
おめ〳〵のとこへ源治が奴らのざらう 川助 夜ゝ云
サヤさの咲へたまおのこおいらがうち

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

あらわれ　かってあげさのざまらっこころ
ところをたのんだのんざやア花ちょうとろうの者
もの難儀をかけるよ。かろいそぶだヨどうか気の毒だよ
[ヤレモウ]イヤモウ好男まいう。ろうさいり
今夜いるぞめんるにむづかしのだらう。そして何時だらうト
とけいをイヤアヽ九ツ半三ツ四ツ。の月が出たらう[男]
[ト]ソレ夜ぐでおすんだ[トノ]コウおしょう和尚。チョウトうとを。
見てまゐさろヽ[容ざ]イヤぼろよ殺風景ダゼ。ぜんその篠月
氏が踊ると云つてみかあらっ。なをむづかしヽうさぜ。ぜんてヽ

チト踊アろも。殺伐だろけ[男]今お板戸の処で。客みを
何の加古川本蔵綱目とあるが。ナントシテヽ弥大楽胡の
癌とめいるヽ。チト余人へお見んセるのさうぶり[トノ]ハテ好
男まいどのヽそも罪なぜヽ[容ざ]おきやがれコウヽぜんそヽ
今夜いのトわもそ得る物が積が痛イとろ云て出ぜヽ
あら天でもづめいのヨ[おめん]うしヽあれがその源氏物を
引出して天窓役よ。ぜんて去ろうそのヽ[門松]コサヽだろて。
ゐるよが考ると又むづかしよ。積がとうのうろうろ
ナゼ出。通の痛むとあれが困るナシゾ。トどのぶよいさうぶ。

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

[丑寅]ところのござの。それ知ってておりもと。ココハお狭白の客
庵さまでござの。トまっこひろうして行ゆとろ。
誤りて稲荷のごた咲きまま居士高ろの戸野五郎。側に
たろんがり。祇猴人路る沿 ▲とうの
ものをがっところぬろよ ■ヘイ命ごさりまと ▲コレ此戸野さまの。
無利いおッちゃらぬぞよ。只今もそちがヤスところり。十一歳
のゆ女とろやせぞもサ。たろと彼が十一才よりもいるを女子がい
既よ年代記を見イ。山城の国なまをうひとある。又十一の試毫宅
て婦人を見るとお母ん服配をいろと鉄るのごへ用事が
あって遣ーても。鳥渡ろった用向よべんくと手間がとる。
あっこのちっぴゃ ■ヘイ命ごさりもとト
まをつて [丑寅]賢ん君 ▲ゆるりの [丑寅]ヘイ賢ん君アノ休 [丑寅]
ちゃっとも気がつく ナニナント [丑寅]
ちゃっとも気がつく ナニナント [丑寅]
ちゃっとも気がつく ナニナント

ひんぐ
やーと [とめ] 土積気が直々さ。ヤそれも重々〳〵ごもっともと
もうせ。彼の又婦女に稀なる利発りの。ヤ彼かこの俊を
捌そのナア咲をま [咲をま] ヘノ 金よござりまセトおっしゃること。
[きこう] 賢君は機嫌よの。今ぞ〳〵 [きこう] ヘイ客なるさんなるござっく。
とく〳〵。ようの〳〵〳〵 [きこう] ヘイ客なるさんなるござっく。
お酔ひぐたの。咲をまさん江戸さんの。ヤ御ゆるりの。
引ゃるよ。賢君〳〵今晩は月夜なの晩ぢゃござりませぬ。
ナゼそんなのた。立眼 [立眼] おとり拵ゃるなの。
いさをさん。ナおとりのおをさんが此を紙のとう。ト〳〵とく

改正私ぐ。そうをさん [きこう] ヘイ〳〵私がきっと。ヨコサ
後生ぢの。皆さんの噂ぢや。叔母さんのとく。処
ゞヤア逝く。ア此設拵ぐとも。そこもかや。激拵ぐさんかう。
賢後よりれなセ〳〵よ。そのち私くとの。つまぢも引を私くよ
[きこう] どのでもござりセトめっそ〳〵と [きこう] サア〳〵ことを
れ後拵ぐ〳〵。何よもの毒い文でござりをさん [とめ]
さのぢんうち咲をま、ナガがそのりの。
ヤたちぬかつぐ。ヤ此身の利発りの。モハヤ積気い
とくとうの。そのさのさが気が淋てナ。皆さんのようて

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

国立国会図書館　　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

たゞてこの戸野さまの。賢意をそるくのそを。ヲレハ涙(けふ)て
無利(むり)いふん客庵(きやくあん)早くゝ[おめん]へイと。封(ふう)をきるて。

一ふでやとよ旦那さま

ござんよくゝ仕(メデ)おたくぞ

まおらせくさてハこよ日(明日)出(戯場)むや

ヨ(トモ)仲(間)よござれらこ系(玄子ン)多(戴)いだきれ

浅黄(異服)の木のふくゝとそか(樽灸漆)たそめの

をばけの古たぎこれこぢなされ

明朝(鋲)こよあさおぢ(口)よぐでちまでぐだ(クダ)ー下

さるべくれねがいよといめでたく

[終]とゝおられがとの[イカイ]たゝりくゝ。やたゝものこと

じや[きくう]それ(ごらんあそ)ばせがまつおなんのことでござい

きそんのをモウ降る治へ引うをせよ［きう］さだが加減嫌をうるつて引ゐョ［おめん］
イヤモウ大れ若旦さまの濵村屋のをまさゆ。さ多でナケリヤ
いゝゆ。トキニお積いろんとうたようのでござりまとうう［きう］イエりゆ。うくうる
めげまをうう［きう］イエりゆ。うくうる［ちま］ナルホド。第一お毒でござるナ
をゆ。おちづまらせたいりのぐ［ちま］
［とめ］イヤ〳〵呑ぐ。旦那ぐ。どうぞ夫ゞやうろ。先刻
さん旦那さんいさろきのさんまろ〳〵。賢君
賢君〳〵［とめ］ウー〳〵客庵皆のりのを呼べさろきまうら

そのヤスにナゼうだ早ウ呼べ［きう］夫でも又長くゐろうラ。
うんうが。難儀でござりまとよりの一ツ宛いろうせて［とめ］
承知サ〳〵。そのいうとうゆ〳〵。おまへのあつ〳〵まとござりのを。
積いろんとうのようう［きう］エーモウろろうございまよ。
おう旦さん旦さんをさゆ〳〵［おめん］打ろう行やでお休大切神
さゆ〳〵。おりがと〳〵と［おめん］サアイ
よゆ〳〵。療治がとぐいく。人身をうりのだゆう病人
たちまちぐゆ〳〵とうり申た。奔参
二角半〳〵出そもへとうんぜ。サア〳〵うんなろい［きう］又初るのう。

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

[ナアニサ] 休が出てさぐ〳〵あら気遣ふぐずとゐつて。
盃をぐつとやつて。[猫]この眼モウヤツだらうのサアー
未みそ〳〵トぶつかれ [きう] こんだん相うらぢや芸者
[こゝ〳〵] あるこつち。お客か窺ひたぶお積気その心別て
[咳をまし] おつげでだとおやまし [列位康健庄] [こゝ〳〵] ヘイ
目がをつちんとまして。レヨイカンチンマアく [こゝ〳〵] ヘイ [とのこ] コレがらら
つまらぬをつそ云たのうのつまらぬ。たゞべイこだつりの。 [とのこ] ころらぬう
ぬろ。コリヤやい。メイトンスイ、獣 [こゝ〳〵] ヘイ何とも分ません
ようとござりやと [とのこ] コリヤ〳〵。教てたろうその。レヨイカン

ケンマアく。といナ。各ゝ子を事でござるとやそのやたら
分ころらんとヤスナ。そこでメイトンスイ。といた。たゞけりのめがと
ヤてこだや。これ是こゝる。唐音どやい [こゝ〳〵] 小ごえへヱーある祖
唐音の寝言だ [とのこ] ナント [きう] イヽエサ唐音とやらい。
おりろいりのでござりやとゝ咎るがやこやつた [とのこ] イヤ
そのやまい。唐言の森云どやとのれい分らぬとのか
ら晩れだや。た秩ならこの〳〵。今晩其方たちを森うと
こいるらぬ〳〵 [きう] 賢君夫がおるうのらッしやまと。
[とのこ] マツレデモ。兵今まで。彼ホ胸坐をいつた実ゝ失礼

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

ぜんぜん　そのつま
ゑゐ。其罪よろうて。寝うてまぜ
ちんと　りそやうたこゝろのゝの。
こそれきそえ　きゃうあと　さがれおぐ〳〵ゐ〳〵ちぶ。
あまりむしまり。[まる]サア〳〵おろさん。
[あのめん]今に風が直る。マアサちづこに
サアおちづまりまうる[とめ]アリ〳〵
おまへのあつ〳〵まるちぶりのをちぶ。
りさんに庵室の寝云とりかへ
これ　ね　ど
曼ようろて。身が分解ところを。
ちめれト大きうまそ云ゆゑ　ゆゑ
きもをつぶしぶんみちぶ
[とめ]ぶら〳〵ところ
あはを納る御代こそ日出れ時を義〳〵サア引〳〵
[まる]

〽イ御機嫌よう〳〵
〽イ御機嫌よう。

四季日待　春廿三夜待之下　終

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155
ガラス使用

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

國貞画

作者　神田毋前　岡山鳥

画師　五渡亭　歌川國貞

同　國貞門人　歌川國繁

廿三夜　士至而舞樓　まひろう

餘興　同作同画

このかんいやうちんぐのけの。
たつどのおなのさのとりづくし。
いどころ。まどころ。ごさごさの
人どうりをこんぞのしゃうねを。
さだめたる。百遍だらけの。ちゃうし。

四季	日待
春	廿三夜待　士　三冊
夏	庚申待　農　同
秋	甲子待　工　同
冬	己己待　商　同

国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用

208
3
155

○曲亭翁画賛扇

十五番武者合　竹馬勒　北馬画　三冊

雲絶間雨夜月　馬琴作　六冊

三國妖婦傳　蘭山作　十五冊

勸善常世物語　馬琴作　五冊

俊寛僧都島物語　同　八冊

浮世床　三馬作　前後

對列御藩中之製法

朝鮮牛肉丸　一包　百銅

名方　羊包　四拾八銅

身一脾胃をとゝのへ気血をめぐらし中風のおそるゝことをまぬかれをなをし人肉をつけちがわざるをさうらんなすこと

柏榮堂

文化十一甲戌春發行

江戸　書林

馬喰町二丁目　西村與八

小傳馬町三丁目　丁子屋平兵衛

神田通鍋町　柏屋半藏

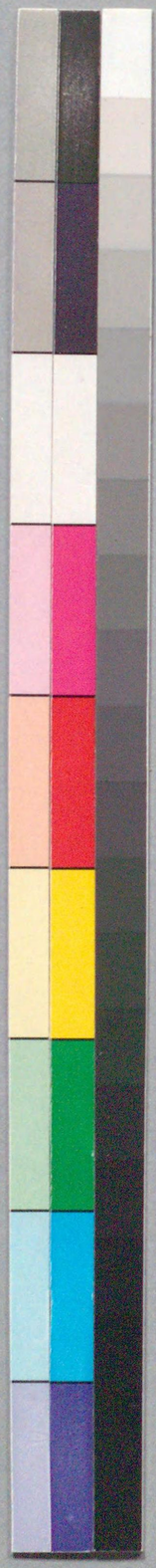
国立国会図書館　春廿三夜待 3巻 208-155

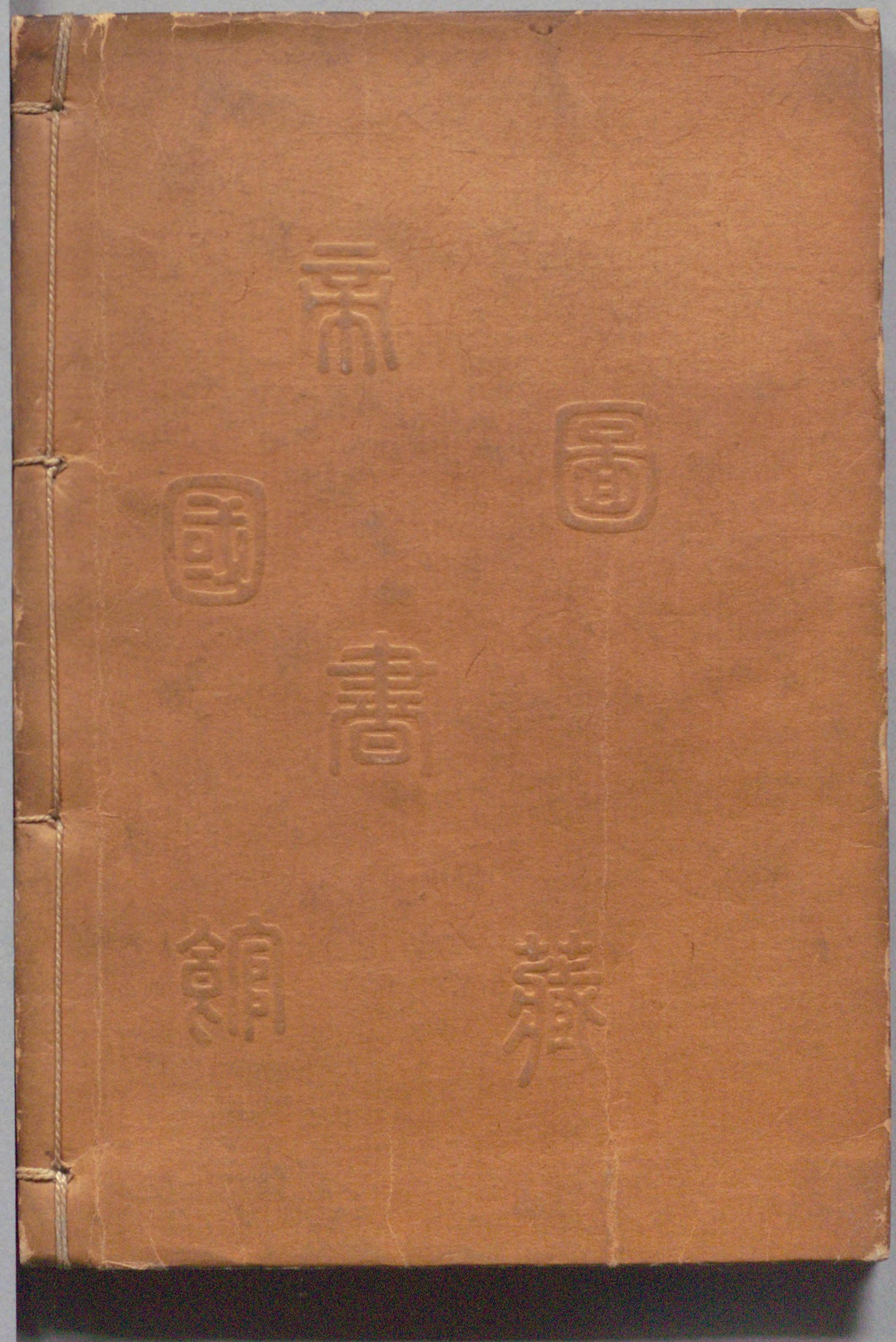
ガラス使用

208
3
155

国立国会図書館　　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用





国立国会図書館　　春廿三夜待 3巻 208-155

ガラス使用